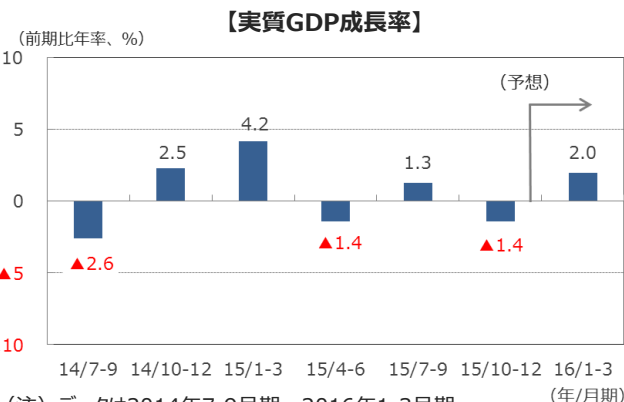


今日のトピック 最近の指標から見る日本経済（2016年2月）

景気は緩やかに回復し、マイナスを脱する

ポイント1 10-12月期はマイナス成長 暖冬の影響で消費が弱い

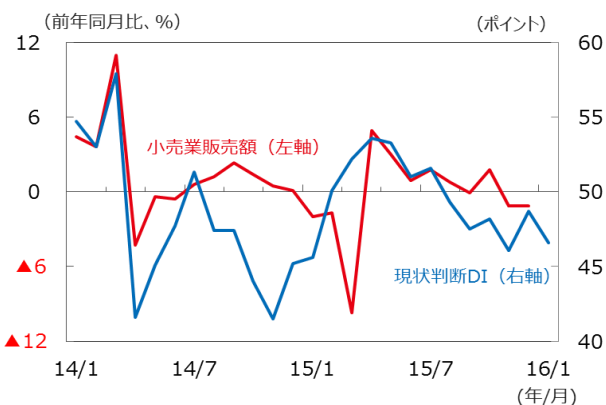
- 2015年10-12月期の実質GDP成長率（一次速報）は、前期比▲0.4%、同年率▲1.4%と2四半期ぶりのマイナス成長となりました。同年4-6月期以降、景気の足踏み状態が続いています。
- 設備投資の持ち直しがあつた一方、個人消費が大きく減少、住宅投資、公共投資、輸出も悪化しました。個人消費に関しては暖冬による一時的な影響も指摘できます。



ポイント2 小売業販売額は停滞 先行きの景況感は一上向く

- 2015年12月の小売業販売額は、前年同月比▲1.1%と2カ月連続のマイナスとなりました。外国人旅行客の押し上げ効果はありましたが、冬のボーナスが伸び悩む中、暖冬による冬物衣料などの不振が押し下げ要因になったとみられます。
- 1月の景気ウォッチャー調査の現状判断DIは、前月から▲2.1ポイントの46.6ポイントでした。家計の飲食関連、企業の非製造業の落ち込みが目立ちました。ただし先行き判断については前月比1.3ポイント上昇の49.5ポイントで、家計、企業とも改善しているため、今後の景況感の持ち直しが期待されます。

【小売業販売額と景気ウォッチャー調査（現状判断DI）】



今後の展開 1-3月期の成長率はプラス転換、緩やかな回復へ

- 1-3月期は、暖冬要因の剥落などから成長率はプラスに転換するとみられます。ただし、春闘の状況を見る限り賃金の改善は緩やかにとどまり、株安、円高による消費者マインドの抑制もあり回復テンポは緩やかと考えられます。
- 日銀によるマイナス金利導入による金利低下に加え、2017年4月の消費税増税を前に、2016年度半ば以降は耐久財や住宅などへの需要増加が見込まれます。2016年度通年では0.9%程度の成長率が見込まれます。

ここも
チェック! 2016年 2月 9日 「街角景気」、先行き判断が上昇（日本）
2016年 1月29日 日銀の金融政策（2016年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。